



# 特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

年次報告書

# 2023 ANNUAL REPORT

2023.4.1 - 2024.3.31



2023年12月1日シェムリアップ州チェイ小学校 歯科検診と歯磨き指導

## ご挨拶

日頃よりハート・オブ・ゴールドの活動にご支援をいただき、誠にありがとうございます。2023年度の活動報告をここにお届けします。

2023年5月、カンボジアで初のSEA Gamesが、6月にはASEAN Para Gamesが開催され、スポーツの価値の高まりを直に感じることができました。未来を創る子ども達や社会参加が難しい障害者の方達のために、2024年もハート・オブ・ゴールドは全力で邁進していきます。引き続き、皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。共に、25年の先に。

2024年7月

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド  
代表理事 有森 裕子

### *Mission*

ハート・オブ・ゴールドはスポーツ・教育等を通じて、人々が「希望と勇気」をもてる社会を実現します。

### *Vision*

最も困難な状況下にある途上国や被災地、紛争地の子どもたち・人々が、自立できるように、共に生き、共に育つことを目指します。

# 2023年度(令和5年度)事業報告書

(自2023年4月1日至2024年3月31日)

## 1. 事業実施の成果

パラ競技会は次年度に延期、N連事業は期間を1か月延長したが、その他の事業を含め、予定していた活動を終えた。JICAプロジェクト・ヒストリーが発刊され、これまでの体育科教育支援の軌跡を多くの人に知ってもらうことができるようになった。新規グッズの制作。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業分類	事業名	主な事業内容	実施場所	従事者数(人)/ 受益者数(人)	支出額 (千円)
国内外における スポーツ大会、 イベントの運営協 力事業	アンコールワット国際 ハーフマラソン(AWHM)	・アンコールワット国際ハーフマラソン(12/3 代表参加)	カンボジア	12/ランナー 10,154	1,881
	スポーツイベント	・チャリティマラソンやスポーツイベントの実施、協力 (5/21ARIMORI CUP、9/10 親子チャリティマラソン in おも ちゃ王国、10/10 アニモの会チャリティゴルフ)	日本	2/ランナースタッフ 160 4/ランナー・ボラ 300 3/参加者 12	
	チャリティイベント	・アニモの会(7/20)		5/参加者 120	
スポーツを通じた 開発支援事業	カンボジア王国 ICT 化による質の高い 4年制体育教員 養成大学支援 プロジェクト 【外務省 NGO 連携 無償資金協力】	・ICT 整備、人材育成ワークショップ等 ・図書館建物建設 ・国際センター計画策定、実施、振り返り、人材育成等 ・内部評価資料整理、人材育成、ワークショップ実施等 ・教員人材育成ワークショップ、本邦研修等 ・学生管理システム構築 ・単位移行ワークショップ(2回)、追加授業実施 ・保健室及びセキュリティーーム建設	カンボジア 日本	11/82(教員)、 間接(学生)	85,796
	小学校から高等学 校「Physical Education for All」 プロジェクト 【JICA 草の根技術 協力事業】	・体育普及計画策定ワークショップ(12/26-28) ・体育普及計画人材育成ワークショップ(1-2月) ・体育授業モニタリング(3 都州 各 4 回) ・本邦研修(9/30-10/7) ・評価ワークショップ(3 都州 各 1 回) ・新体育普及コンテンツ作成、アプリコンテンツ開発支援		10/ 直接 759 (教員行政官)、 間接 136,509 (児童・生徒)	
	スポーツ施設設置	・体育拠点小学校及び中学校、JICA 海外協力隊活 動校に施設、用具を支援 ・設置済み浄水器のメンテナンス	カンボジア	7/4 校 2,522 人 (児童・生徒)	
	その他	・東南アジア大会開会式出席 ・ラオス調査(体育新規案件形成のため)5、12月	カンボジア ラオス	2/多数 1	
障がい者支援 事業	パラ陸上支援	・アンコールワット国際ハーフマラソン参加支援	カンボジア	2/45	1,389
	パラ競技会	・(次年度実施に延期)		-	
	かすみがうらマラソン	・4/16 土浦市にて実施。障害者 2 名招聘	日本	4/2	
被災地、紛争地 における自立、復 興支援事業	日本語教育	・HG ももたろう日本語学校(チェイ小教室)運営 ・日本留学(岡山学芸館高校に 1 名)	カンボジア 日本	6/45 7/1	6,780
	養護施設(NCCC) 運営	・孤児や貧困児童の受入れ(9 名)、安全な環境と教 育の機会提供 ・里親制度による養育		10/9 里親 65	
国際理解・交流 事業	サービスマスター (学校教育)	・学校への講師派遣、出前授業・ ・オンライン交流を通じた国際協力の実践的学習の機 会提供	日本 カンボジア	5、ボラ 2/多数	253
	受入事業	・インターンの受入れ(シムリアップ 2 名) ・ツアー、研修旅行受入れ(団体 6 件、個人 3 件)	カンボジア	インターン 2 12/180	
その他、この法人 の目的を達成す るために必要な 事業	広報活動	・通信(年 2 回)、年次報告の発行 ・ホームページ、SNS の管理、更新 ・講演会、報告会、パネル展等の広報活動 ・寄稿、取材対応 ・書籍発刊(他団体)	日本 カンボジア	10、ボラ 4 /会員、支援者、 不特定多数	2,564
	支部及びクラブ活動	・会員交流会開催、HG クラブ(地域)総会参加	日本	5/参加者 80	
	渉外活動	・ネットワーク構築、外部対応など	日本 カンボジア	4、理事/-	
	調査・研究・情報収集	・シンポジウム、国際会議への参加 ・調査、統計、情報収集、資料整備、分析		1/-	

### (2) その他の事業

物品販売事業 出版・講演事業	収益事業	・バザー、イベントでのブース出店 ・オリジナルグッズ・書籍の販売	日本	7、ボラ 10 /不特定多数	480
-------------------	------	-------------------------------------	----	-------------------	-----

## 国内外におけるスポーツ大会、イベントの運営協力事業

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン／スポーツエイド	1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を
支援対象	日本国内、及びカンボジアの大会参加者、カンボジア活動対象者	
活動理由	アンコールワット国際ハーフマラソンの実現に向けて、日本の有志が日本国内のチャリティマラソン大会から、その資金を集めた。その意志が、現在も引き継がれている。マラソン大会をはじめとしたスポーツイベントが、チャリティを掲げ、ハート・オブ・ゴールドがカンボジアで取り組む活動を支えている。	
活動概要	<p>多くの大会やイベントが通常開催となった。</p> <p>1. アンコールワット国際ハーフマラソン</p> <p>12月3日、シムリアップのアンコール遺跡にて、78カ国 10,154人のランナーを迎え、開催。カンボジア人ランナーが7,197人と約7割を占め、国内の大会として定着したことがうかがえる。</p> <p>2. 第13回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国</p> <p>9月10日、子どもとその保護者、ボランティアあわせ、約300人が参加し、開園前の遊園地内を周回するランニング大会。カンボジアの小学校に鉄棒を贈るチャリティ大会として、現在37基を設置。</p> <p>3. アニモの会</p> <p>7月20日、岡山をホームとするスポーツチーム等16団体が一堂に介し、若手経営者の方々に活動を報告。岡山のスポーツ振興を更に発展させていくとともに、当会への支援もいただいている。また、10月10日には、アニモの会チャリティゴルフコンペを開催。今後の広がりを期待する。</p> <p>4. その他のチャリティ・イベント</p> <p>5月21日 ARIMORI CUP 2023（北海道むかわ町）、5月27日 みしま西山連峰登山マラソン ラストイベント（新潟県長岡市）、5月28日 第50回川俣ロードレース大会（福島県川俣町）</p>	

## 国際理解・交流事業

事業名	サービスラーニング(学校教育)	1 貧困をなくそう 4 質の高い教育をみんなに 17 パートナリシップで目標を達成しよう
支援対象	日本:小・中・高・大学 / カンボジア:HG ももたろう日本語学校、NCCC	
活動理由	学校が取り組む総合的な学習や国際理解教育、ボランティア活動に協力。スタッフによる講演や出前授業、ICTによる交流、現地訪問など、様々な手段を活用。実践を通して、子どもが世界の現状(貧困、環境、平和など)に目を向け、グローバルな視点で国際理解(異文化理解)を深め、多様性の共存や持続可能な開発などについて考え、更に自分理解につなげ、自己の可能性と力に目覚め、すすんで社会のために活動できる人材育成に寄与する。	
活動概要	<p>SDGsの達成に取り組む教育機関(SDGsネットワークおかやま)と連携(岡山ESD推進協議会からの委託)</p> <p>1. 出前授業(6回)</p> <p>当会の活動を通して、特に途上国を理解し、自分達にできる活動につないで実践した。自分達が集めた物資や募金が、現地に届き、喜ばれ、活用されたことを知ることによって、活動の意味を見つけた。また、新しい活動として、現地の子どもの絵に、日本の子どもが文を書いて、創作絵本「太陽の冒険」を共同作業で作成した。</p> <p>現地に行けない小・中学生たちが、Zoom、Google Meet等を使用し現地とオンラインで結び、顔を見て、声を聴いて、深い交流が可能となっている。</p> <p>2. 現地での受け入れ</p> <p>日本の小・中・高・大学生や団体(6件)、個人等が現地を訪問し、活動参加や交流を行った。インターン2名。</p> <p>3. 物資・募金による活動</p> <p>現地で必要とされる物資を各学校が集め、ツアーでの持込みや、協力者のコンテナで3回送ることができた。募金は、日本語教室のテキストや参考書などに活用。物資はNCCCや日本語教室の子ども達に配付。</p>	

# 障がい者支援事業

<b>事業名</b>	<b>障害者陸上支援</b>	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <b>3</b>  <small>すべての人に 健康と福祉を</small> </div> <div style="text-align: center;"> <b>10</b>  <small>人や国の不平等 をなくそう</small> </div> </div>
<b>支援対象</b>	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、 カンボジアパラリンピック委員会(NPGC)、カンボジア障害者陸上連盟(CPAF)、障害者	
<b>活動理由</b> カンボジアでは、障害者に対する差別や社会制度が十分でないために、障害者が社会に出ていくことが難しい。ハート・オブ・ゴールドは設立当初から「アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)」を通して、障害を持つ人が、スポーツの力により障害を克服できるようになることを願い、同大会への障害者ランナー参加の仕組みを作った。そして、AWHMで上位に入賞した障害者ランナーを「かすみがうらマラソン」に招待する等、より多くの大会に参加する機会を提供してきた。		
<b>活動概要</b> カンボジアのパラリンピック委員会と協力し、障害者陸上の支援を行っている。選手・指導者の育成、啓発活動等に取り組んでいる。 <ol style="list-style-type: none"> <li data-bbox="108 792 900 1384"> <b>1. かすみがうらマラソン兼国際ブラインドマラソンへの招聘</b>                      コロナ禍以降ストップしていた選手の招聘を2023年から再開。2022年12月に開催された第27回アンコールワット国際ハーフマラソンで有森賞を受賞したティーン・チー氏とチェト・イム氏の2名をかすみがうらマラソンに招聘した(4月14-18日)。両氏は義足5kmに出場。6月にカンボジアで開催された2023 ASEAN PARA Gamesに向けて、多くの選手が海外渡航を控え調整していたため、普段は仕事をしながらランニングをしている彼らにも大きなチャンスが訪れ、招待選手となった。彼らの勤務先も休暇を与えて送り出してくれた。大会終了後には東日本会員交流会参加。また、カンボジアパラ陸上競技会のメインスポンサーのActive People's Microfinance Institution PLCの本社である株式会社ビジネスパートナー様、株式会社社登檜様を訪問し、日頃の支援に直接感謝を伝えることができた。                 </li> <li data-bbox="108 1435 900 1809"> <b>2. アンコールワット国際ハーフマラソン(AWHM)への参加支援</b>                      現在、当会がサポートする障害者45名(車いす/義手/義足/知的障害/視覚障害)が出場した。大会全体の障害者参加は63名(車いす22名、義手15名、義足17名、知的障害5名、視覚障害4名)で、うち約7割を占めている。同大会で優秀な成績を収めた、義足女子の部1位のヴェット・チャンター氏と義手男子の部1位のジー・ソクサン氏に有森賞を授与し、2024年4月に開催されるかすみがうらマラソンへの招聘が決まった。                 </li> </ol> <p data-bbox="108 1861 900 2018">                     ※ かすみがうらマラソンとアンコールワット国際ハーフマラソンは、2010年に姉妹マラソンとなって以来、それぞれの大会に選手を派遣している。AWHMからは、障害者ランナー2名が招待されている。                 </p>		
		かすみがうらマラソン スタート前
		AWHM 最初にスタートするのが車いすハーフ
		AWHMゴール目の障害者ランナー

# スポーツを通じた開発支援事業

事業名	<b>【JICA 草の根技術協力事業】</b> カンボジア王国小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ「PE for All」プロジェクト	4 質の高い教育を みんなに
支援対象	カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、地方教育局(POE、DOE)、小・中・高等学校	
<b>活動理由</b> 2006年から教育・青年・スポーツ省と連携し、小学校の学習指導要領、指導書作成と普及を経て、中学校でも同様の事業を実施し、カンボジア体育科教育の支援を行ってきた。また、同省が高等学校の指導要領を独自で作成、配付し、自立的普及も徐々に進んでいる。本事業では、対象3都州の小学校、中学校、高等学校の全ての学校において、新しい体育実施を目標とし、一貫した体育科教育の普及モデルとする。		
<b>プロジェクト・ゴール</b> プノンペン都、バットアンバン州、スヴァイリエン州を対象に、小・中・高等学校において、教育・青年・スポーツ省、各都・州・郡教育局監督の下、学習指導要領及び指導書の内容に沿った新しい体育が実施されている。		
<b>事業成果</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体育普及計画策定ワークショップにより、各都州の2年目の普及計画が策定された。また、評価ワークショップにより、各都州の体育の普及状況が確認され、州・郡教育局担当官、小中高校長、及び教員の指導方法改善の課題と新しい体育普及の方向性が確認された。</li> <li>2. 体育授業モニタリング(3都州)を通じて、現状の新しい体育の導入状況が確認できたと共に、課題を抽出することができた。また、本邦研修を実施し、3都州の教育局担当官、校長、教員らからなる13名の研修員が、体育科教育、日本・カンボジア両国の教育環境への理解を深めることができた。体育普及計画導入人材育成ワークショップ(3都州)により、体育普及計画を理解し、新しい体育を導入できる人材(州・郡教育局、小中高校長及び教員)が育成された。</li> <li>3. 普及コンテンツ(オンライン向け映像)の作成を進めており、中学1年生から高校3年生までの映像が完成。小学1年生から6年生までのリズム運動の映像は、撮影が終わり、公開に向けた編集を進めている。</li> </ol>		
<b>活動概要</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>体育授業のモニタリング</b>                      3都州の小中高校でモニタリングを実施。203校の学校を訪問した。</li> <li>2. <b>評価ワークショップ</b>                      10月18-20日にバットアンバン州、11月16-18日にプノンペン都、11月21-23日にスヴァイリエン州にて、評価ワークショップを開催した。</li> <li>3. <b>本邦研修</b>                      9月30日-10月7日、岡山にて本邦研修を実施。岡山県、岡山市、浅口市の各教育委員会のご協力を得て、小中高校を視察。岡山大学での講義も含め、日本の教育現場の状況が理解できた。</li> <li>4. <b>普及計画策定ワークショップ</b>                      12月26-28日、3都州/郡の教育局関係者を対象に、プロジェクトの目標や活動内容、今後の予定を説明し、実際に普及計画を策定するためのワークショップを開催した。</li> <li>5. <b>普及計画実践人材育成ワークショップ</b>                      1月23-25日スヴァイリエン州、1月30日-2月1日バットアンバン州、2月13-15日プノンペン都にて、それぞれ都州・郡の教育局や小中高等学校の校長を対象に、体育教員向けのワークショップを実施し、約250人が参加した。</li> <li>6. <b>体育普及コンテンツ制作</b>                      カンボジア教育省、(一社)Social Compassと協力し、オンラインで体育を学習するための映像を作成している。4月-8月に国立体育・スポーツ研究所(NIPES)の学生が出演し、ダンスの映像を作成。2月と3月にはプノンペン都内の小学生が出演し、リズム運動の映像を作成。</li> </ol>		
		
		
		

体育授業のモニタリング

普及計画策定ワークショップ

本邦研修 岡山市内の小学校を視察

<p><b>事業名</b></p>	<p><b>【外務省 日本NGO連携無償資金協力事業】</b> <b>カンボジア王国 ICT 化による質の高い4年制体育教員養成大学支援プロジェクト</b></p>
<p><b>支援対象</b></p>	<p>カンボジア王国 教育・青年・スポーツ省(MoEYS)、国立体育・スポーツ研究所(NIPES)</p>
<p><b>活動理由</b> カンボジア教育・青年・スポーツ省(以下、教育省)の要請を受け、2019年より開始したカンボジア唯一の体育・スポーツ教員養成機関である NIPES を4年制大学とする第1期事業が終了し、本年より第2期3か年の本事業が始まった。教育省が制定する高等教育機関として必要な9項目73の基準に対し、レベルアップが必要な図書館や国際センターの設置、内部評価の実施、持続的・継続的な教員養成や組織全体のマネジメント、授業内容の質的向上を図る体制、学生の情報や成績のデータ化と管理、2年制卒業生に対する学士取得制度、大学及び学生の安全管理の徹底を進め、大学運営を改善し、そのために必要な人材育成、インフラ資機材等の整備を図る。</p>	
<p><b>プロジェクト・ゴール</b> NIPES の図書館及び国際センターの運営、内部評価、教員養成、学生管理、卒業生支援、安全管理が、ICT 化により統一的に促進される。</p>	
<p><b>事業成果</b> (2023年度: 第2期第1年次事業(2023年3月1日~2024年3月30日)) 1. 日本研修2回を含む5種11回の研修会、4回の授業モニタリングを実施した。国際センターや内部評価部門を設置し、インドネシアの大学との覚書、オンライン授業を実施し、教員養成を図り、2年制から4年制への単位互換制度を整備した。ICT化の推進は、内部システムを開発し、学生、教職員のデータベースを構築。新校舎建設工事は、2024年3月に1階の図書館部分が完了。</p>	
<p><b>活動概要</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>NIPES のデータ管理システムを構築する。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>Web 開発、及びデータ管理基本計画を策定するための ICT 研修会を実施(8月)。</li> <li>NIPES 内部システムを構築して、データ入力を開始。</li> </ul> </li> <li><b>NIPES の国際センターが設置され、ICT を活用し、運営される。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>国際センターの計画を作成するための研修会を実施(4月)。</li> <li>タイ Maha Sarakham 大学で開催されたアセアン体育スポーツ評議会(ACPES2023)に参加(11月、5名)。</li> <li>インドネシア STOK Bina Guna 大学と覚書を締結(12月)。</li> <li>タイ Kasetsart 大学(1月)とインドネシア Negeri Semarang 大学(2月)とのオンライン授業を実施。</li> </ul> </li> <li><b>NIPES の内部評価の質が向上し、適切な評価が実施、周知される。</b> 内部評価を効率的・有効的に進めるための研修会(6月)、内部評価人材育成のための研修会(9月)、運営評価研修会(12月)を開催し、第1回目の自己評価報告書を作成した(2月)。</li> <li><b>NIPES において質の高い体育教員養成が育成され、ICT 等を活用した質の高い授業が提供される。</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本体育大学岡出教授(オンライン講義)と ACPES 参加メンバーに ICT を活用した体育の授業の取り組みについて、NIPES で研修会を実施(5月)。</li> <li>高等体育科教師教育機関における ICT の活用について、日本体育大学を中心に本邦研修を実施(7月、3名)。</li> <li>日本体育大学において本邦研修を実施し、研究の実施方法について学び、NIPES の研究ポリシーを策定した(3月、3名)。</li> <li>本邦研修の内容、ACPES 発表のテーマ、NIPES の研究ポリシーの共有のための研修会を NIPES で実施(3月)。</li> </ul> </li> <li><b>NIPES が ICT を用いた学生管理ができています。</b> NIPES 内部システムを使い、全ての教職員と学生のデータを入力。</li> <li><b>NIPES の卒業生がネットワーク化され、継続的に現職教員の質が向上する。</b> 2年制卒業生が4年制資格を取得するためのクレジット・トランスファー・ワークショップを開催。NIPES 教員と中・高等学校の体育教員が学士に昇格するための省令案とカリキュラムフレームワーク案を作成(1月、3月)。</li> </ol>	 <p>本邦研修における岡出教授の講義(7月)</p>  <p>運営評価研修会(12月)</p>  <p>新校舎1階の図書館</p>

## 被災地、紛争地における自立、復興支援事業

事業名 日本語教育(HG ももたろう日本語学校/留学生)

支援対象 カンボジアの青少年

### 活動理由

設立当時、観光が主な産業であったシェムリアップでは、貧困家庭の子どもの就職が困難な状況下、日本語ができれば仕事に就くことができた。日本語教育の要望を受け、2000年9月に公立チェイ小学校内に無料の日本語教室を開講。これまでに多くの子どもが日本語を学び、自立につながっている。その後も、青年を対象に、ビルド・ブライツ大学(BBU)外国語センターの日本語講座(2015-2019)、HG ももたろう日本語学校(2019-2022)でニーズに合わせた指導を実施してきた。生徒一人ひとりが希望する進路指導により、日本とカンボジアをつなぐ若者として活躍してもらうことを目的としている。

### 活動概要

公立チェイ小学校内に拠点を戻して2年目となる。現在、カンボジア人教師1名を中心に、日本人1名がオンラインで指導を行っている。

#### 1. 授業

学習1年目2クラス21人、学習2年目2クラス15人(小学生から高校生)が在籍(2024年1月現在)。2024年7月の日本語能力試験に向け、中・高校生には別に個別指導も行っている。

日本からの中高生、大学生、一般の訪問を受け入れ、特に、日本語授業に参加してもらって交流活動を実施した。

#### 2. 教材・設備

テキストは、『みんなの日本語』を主として、『いろどり』を併用。指導教師が作成した教材や小テスト等を活用している。

新たに日本語学習を始める生徒への授業に必要なノートや鉛筆なども支援の中から調達できている。

教室のホワイトボード用に、マグネット対応のシート支援をいただき、授業が円滑に行えるようになった。

日本の学校などからの継続的な支援によって、日本語の絵本、図鑑、書籍が多数並んだ図書コーナーが整備され、自由に閲覧できる。休憩時には、日本語を学習していない児童も絵本を手にとっている。

また、雨漏りが気になっていた屋根の点検、修繕も実施できた。

#### 3. 留学生

5月から3月まで、岡山学芸館高校へ12人目の生徒が留学。国際センターでの日本語学習とあわせて、高校クラスでの活動や校外学習、部活動やボランティア活動にも参加。また、他国からの留学生とも交流し、貴重な経験を積んで帰国した。留学前と比べ、実践的な会話能力が向上し、コミュニケーションも円滑に行えるようになった。将来は日本語を活かした仕事に就くことを目標に、日本語の学習を続けている。

日本語を学び始めたばかりの小中学生には、身近な先輩の存在が、現実的な目標となった。

#### 4. 教員研修

国際交流基金の模擬授業などとおして、指導方法を学ぶ機会を得ている。

また、シェムリアップ日本語教師会に参加し、情報共有を図っている。教員増員後は、短期研修等を予定している。



大学生も授業に参加し、交流を深める







教室前のテラスで絵本に夢中



留学生(左2人目)とともに学ぶ仲間と初めてのスキー



<b>事業名</b>	<b>養護施設(ニュー・チャイルド・ケアセンター:NCCC)運営事業</b>	1 貧困をなくそう 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	6 安全な水とトイレを世界中に 
------------	--	---	--	---	---

<b>支援対象</b>	シェムリアップ近郊の貧困家庭等の児童
-------------	--------------------

**活動理由**  
 家庭での生活が困難な状況の児童を、安心して生活できる環境のもと養育し、就学の機会などを提供することにより、貧困の連鎖から抜け出し、自立していけるよう支援する。カンボジアの良き市民となる人材を育成する。

**活動概要**

1. 児童数 9名(男子3名/女子6名) ※ 2024/3/31 現在
2. 生活と学習
  - ・12月の新学期から小学生は午後、中・高校生は午前の授業となり、学校生活、放課後のセンターでの生活が分かれた。中・高校生は苦手教科の補習を受講したり、HGもたろう日本語学校で、自身の学習や日本語クラスのアシスタントをしたりするなど、各自の学習に取り組んでいる。小学生は午前中に、スタッフに宿題の指導を受け、個人学習時間の確保をしている。
  - ・5月から3月まで、高校生1人が日本に語学留学した(NCCCからの留学は4人目となる)。
  - ・藤沢ロータリークラブ様のご支援で冷蔵庫を交換。毎日市場に買い物に行っていたが、回数が減り負担が軽減された。食品保存が可能となって1週間の献立も立てられるようになり、バランスのとれた食生活ができている。
  - ・大学生インターン2人が、現地にて活動に参加(8-9月、9-12月)。子どもやスタッフとのコミュニケーションを図るため、クメール語の習得に励み、子ども達への学習指導、経費管理と書類整備の改善に努めてくれた。
  - ・保護者と離れて暮らす子どもにとって、家族や親戚とのつながりを絶やさないためにも、現在は、保護者等の来所を積極的にすすめている。子どもが体調を崩した時には、付き添いなどの協力も得ている。節目ごとに借りたバイクに乗せてもらい菓子を持ってきてくれる祖母や遠く離れた日本で働いている姉の存在は、子ども達の支えとなっている。来年度からは、クメール正月・盆の里帰りも再開予定。そして、NCCCの卒園生とのネットワーク整備もすすめる。自立し、新しい家族ができた先輩達は入所児にとっての現実的なモデルとなっている。また、卒園生を温かく迎える家であることは、NCCCの重要な役割である。
3. 交流
  - ・日本の人々の現地訪問受入(中学1回、高校2回、大学1回、個人・団体6回)や学校とのオンライン交流を継続。
  - ・6月は、高野山真言宗総本山金剛峯寺、並びに高野山真言宗南真会の皆様の訪問があった。屋外に設置してある仏祠が一部破損と老朽化のため、新設のご支援をいただいた。あわせて、薬師如来様の撥遣・大日如来様の開眼式を執り行っていただき、子ども達は手を合わせて祈り、自分自身と向き合うことを改めて教わった。
  - ・12月開催のアンコールワット国際ハーフマラソンにあわせ、5年ぶりに会員、かすみがうらマラソン関係方々などツアー参加の皆様の訪問を受け入れ。ツアー用にNCCCの子どもがデザインしたTシャツ作製も再開。参加者全員が着用し、歯科検診や交流等の活動を実施。歯科検診が初めての子ども3人は怖くて泣きだし、参加者が優しくサポートしてくれた。
4. 支援
 

現地の物価上昇、円安の影響を受け、更に子ども達を取り巻く学習環境が変化し教育費が増加し、当初予算を超える支出となっている。学校で集めた文具や日用品、衣類等のご支援、個人や団体の方々からのご寄付、そして、ペアレント様の定期的、継続的なご支援により、NCCCの安定した運営が維持できている。



消極的な子もインターン生に勉強を教えてもらっていた



NCCCに兄弟とともに入所していたソコンティアさん(中央、2013年退所)が子ども達を訪ねてきてくれた



薬師如来様の撥遣式と大日如来様の開眼式

# 2023年度会計報告

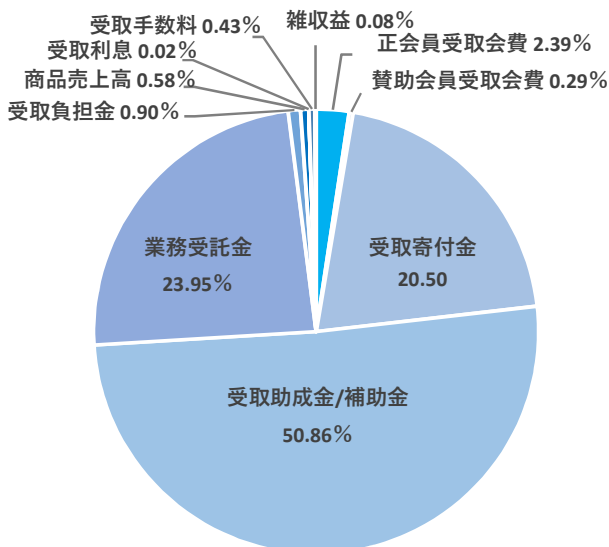
## 活動計算書 (2023.4.1~2024.3.31)

科目	金額(単位:円)
<b>I 経常収益</b>	
正会員受取会費	2,631,000
賛助会員受取会費	320,000
受取寄付金	22,602,345
受取助成金/補助金	56,077,980
業務受託金	26,402,200
受取負担金	987,653
商品売上高	640,220
受取利息	17,084
受取手数料	477,243
雑収	93,179
<b>経常収益計</b>	<b>110,248,904</b>
<b>II 経常費用</b>	
<b>1 事業費</b>	
国内外におけるスポーツ大会・イベントの運営協力事業	1,881,044
スポーツを通じた開発支援事業	85,795,691
障がい者支援事業	1,388,827
被災地、紛争地における自立、復興支援事業	6,799,620
国際理解・交流事業	252,586
その他、この法人の目的を達成するために必要な事業	2,564,416
その他の活動(収益事業)	480,103
<b>事業費計</b>	<b>99,162,287</b>
<b>2 管理費</b>	
管理費人件費	3,022,295
その他管理費	3,586,657
<b>管理費計</b>	<b>6,608,952</b>
<b>経常費用計</b>	<b>105,771,239</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>4,477,665</b>
法人税、住民税及び事業税	71,000
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>4,406,665</b>
前期繰越正味財産額	78,737,100
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>83,143,765</b>

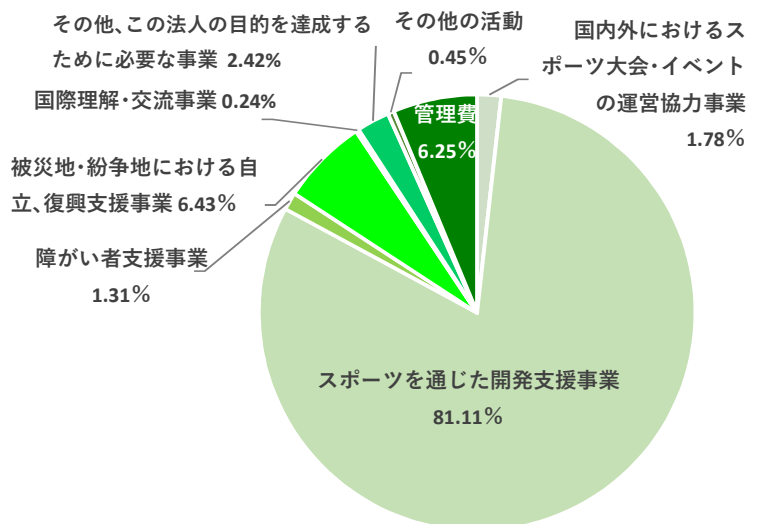
## 貸借対照表 (2024.3.31現在)

科目	金額(単位:円)
<b>I 資産の部</b>	
<b>1 流動資産</b>	
現金預金	36,452,331
棚卸資産	432,822
貯蔵品	426,195
立替金	79,527
仮払金	829,240
<b>流動資産合計</b>	<b>38,220,115</b>
<b>2 固定資産</b>	
(1)有形固定資産	
車両運搬具	1
什器備品	101,917
<b>有形固定資産計</b>	<b>101,918</b>
(2)投資その他の資産	
敷金	300,742
事業積立金	50,000,000
投資その他の資産計	50,300,742
<b>固定資産合計</b>	<b>50,402,660</b>
<b>資産合計</b>	<b>88,622,775</b>
<b>II 負債の部</b>	
<b>1 流動負債</b>	
未払金	4,511,911
前受金	14,835
預り金	422,264
未払法人税等	71,000
未払消費税	459,000
<b>流動負債合計</b>	<b>5,479,010</b>
<b>負債合計</b>	<b>5,479,010</b>
<b>III 正味財産の部</b>	
前期繰越正味財産	78,737,100
当期正味財産増減額	4,406,665
<b>正味財産合計</b>	<b>83,143,765</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>88,622,775</b>

### 経常収益内訳 (計: ¥110,248,904)



### 経常費用内訳 (計: ¥105,771,239)



## ご支援・ご協力ありがとうございます

### ◆ 法人正会員 34

NPO法人こまちハート・オブ・ゴールド  
一般社団法人奈良県経済倶楽部  
岡山トヨタ自動車株式会社  
株式会社トヨタレンタリース岡山  
株式会社ビザビ  
株式会社JTB 岡山支店  
株式会社翌檜  
株式会社大手饅頭伊部屋  
株式会社大町  
株式会社研美社  
株式会社山陽新聞社  
株式会社徳山電機製作所  
株式会社浜谷金属工業所  
株式会社フォレスト・ジャパン  
株式会社マルワ電化  
株式会社RIGHTS.  
木田山宝積寺

公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク  
高野山真言宗総本山金剛峯寺  
宗教法人津梁院  
宗教法人薬王寺  
大光電機株式会社  
中央自動車工業株式会社  
中国建設工業株式会社  
天満屋ストア労働組合  
ナカシマホールディングス株式会社  
奈良県自動車整備工業協同組合  
奈良トヨタ株式会社  
日本空港ビルディング株式会社  
日立建機株式会社  
富士リアルティ株式会社  
メタウォーター株式会社  
ユニック中四国販売株式会社  
両備ホールディングス株式会社 (五十音順、敬称略)

### ◆ 法人賛助会員 1

中国建設工業株式会社 (敬称略)

### ◆ 個人正会員 531 / 個人賛助会員 23

### ◆ 法人・団体様のご寄付・ご協力 26

うち5万円以上のご寄付、ご協力をいただいた団体・企業様をご紹介します。

アンコールワット国際ハーフマラソン  
岡山学芸館高等学校インターアクトクラブ  
岡山市立第三藤田小学校6年生  
親子チャリティマラソンinおもちゃ王国  
かすみがうらマラソン大会事務局  
学校法人森教育学園  
株式会社翌檜  
株式会社栄光スポーツ  
株式会社大町  
株式会社山陽新聞社  
株式会社JTB  
株式会社トヨタレンタリース奈良  
公益財団法人全日本軟式野球連盟

高野山真言宗総本山金剛峯寺  
高野山真言宗南真会  
サンケイスポーツ  
宗教法人 津梁院  
就実中学校・就実高等学校生徒会  
大光電機株式会社  
中国建設工業株式会社  
ハート・オブ・ゴールド福島クラブ  
ハート・オブ・ゴールド長岡クラブ  
兵庫県高校陸上競技合同練習会  
藤沢ロータリークラブ  
ミ・ナーラ  
有限会社ちばてつやプロダクション (五十音順、敬称略)

### ◆ 個人のご寄付 288、うち5万円を超えるもの 19

※ 個人情報保護のため、個人の方のお名前の掲載は控えさせていただきます。

円安が進み、現地での活動に大きな影響を及ぼしていますが、皆様からの温かいご支援とご協力のおかげをもちまして、2023年度を無事に終えることができました。心よりお礼申し上げます。賛助会員新設に続き、カンボジアでのサポーター制度をスタートさせました。厳しい状況が続いていますが、さらに多様な収入創出に挑戦していきます。皆様のご意見やご提案もお寄せいただくと幸いです。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# サポーター大募集!!

小さな支援が集まり 大きな力になります

## 支援する

### 会員になる



個人正会員 3,000円/年  
法人正会員 30,000円/年

※ 総会の議決権を有し、  
団体の運営に関わります。

個人賛助会員 10,000円/年  
法人賛助会員 50,000円/年

※ 寄付扱いとなり、寄付金  
受領証明書を発行。  
税制上の優遇措置の対象  
となります。

### 寄付をする



#### - 一般寄付 -

活動や団体運営に充てさせて  
いただきます。

#### - プロジェクト寄付 -

特定の活動を応援したい!!  
現地から活動報告が届き、  
活動現場の訪問もできます。

- ① スポーツ施設・用具
- ② 障害者スポーツ
- ③ 日本語教育
- ④ 日本語留学生
- ⑤ ハート・ペアレント  
(養護施設里親)

#### - 遺贈寄付 -

・遺贈(遺言による財産の寄付)  
・相続財産のご寄付(申告期限  
内は相続税がかかりません)  
をお寄せください。  
ご相談は、事務局まで。

#### - 物資寄付 -

お手許の使わなくなった  
ものが役に立ちます。

- ・スポーツ用品・用具
- ・石鹸・タオル等日用品(新品)
- ・文具・教材・本・絵本
- ・書き損じはがき、未使用切手、
- ・QUOカード等

HGは、認定NPO法人です。  
法人、個人ともに、ご寄付は、  
税制上の優遇措置が受けられます。

### グッズを買う



有森代表デザインのロゴ付のオ  
リジナルグッズを販売していま  
す。収益は活動に充てられます。  
・Tシャツ・タオルなど

## 参加する

### ボランティア

個人で、グループで、活動の  
お手伝いをしていただけませ  
んか? 本部事務局での事務や  
イベントのサポート、専門的  
な知識や技術(IT、デザイン、  
通訳・翻訳)をお持ちの方を  
募っています。シニアの方にも  
ご活躍いただいています!

### インターンシップ

国際協力・開発、教育、  
スポーツに関心のある  
大学生や社会人の方を  
対象に、1カ月~1年の  
期間で、本部事務局・  
東南アジア事務所にて  
受け入れています。  
ともに活動しましょう!

### スタディ・ツアー

HGスタディ・ツアー  
年1回。HGの現地での活動  
に直接触れることができる貴  
重な体験となります。

※ 研修やフィールド・ワーク、  
ゼミ旅行等、HGの活動現場で  
「学び」のお手伝いをします。  
是非、ご相談ください。

年次報告書と通信(2回/年)の送付、交流会や特別イベントのご案内をさせていただきます。

みなさまのご支援、ご参加をお待ちしています!

認定特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

〒701-1213 岡山市北区西辛川895-7-101 Tel/Fax 086-284-9700 e-mail: hginfo@hofg.org